

緑と歴史のトポス（ヒストリータウン）、府中と国分寺を語る

坂 浩 秀 一（立正大学 特別荣誉教授）

1 選ばれたトポスの地

トポス (topos) は、ギリシャ語で「場」「場所」を示します。そのトポスに歴史的な意が込められて形成された「府中市」、「国分寺市」はヒストリータウンと称するに相応しい地と申せましょう。多摩川中流の左岸、南に国府（現・府中市）その北に国分二寺（現・国分寺市）が設置され、南北に直線の東山道武蔵路が営まれました。国府・東山道武蔵路の設置は7世紀の後半、国分寺の創建は8世紀の中頃でした。

府中市に国府が設定され、東山道武蔵路が設置された頃、国府の西方に武蔵府中熊野神社古墳（上円下方墳）が、後に国分寺が建立された国分寺市には、内藤新田横穴墓群（墓前域石垣積み横穴）が存在し、国府・国分寺の設置に先行して特徴ある地域として古代武蔵国の歴史に光輝していたことは注目されます。

多摩川の左岸は平坦な丘陵地が東西に連続し、北方の国分寺崖線下に多くの湧水群を併せて東西に流れる野川の上流域が認められ、古代武蔵国の政治・経済の中心地—国府、信仰・文化の中核地—国分寺の地に相応しいトポスとして発展しました。

2 武蔵国の国府の発展

国府は、南に多摩川、北に東山道武蔵路をもつ、自然と人文の結節点でありました。水運利便の水上交通、北からの陸上交通が交わり、独自の官衙域と集落を、多摩川に直面して東西の平坦地を舞台として展開していきました。7世紀の後半、多磨郡衙（現在・大国魂神社の東側）の所在が知られる地は、西方に武蔵府中熊野神社古墳が築造され、8世紀に入ると国府の地として都市が形成されました。古代の国府は国庁を中心としてほぼ正方形に区画されると考えられてきましたが、武蔵国は、自然条件もあり、東西に拡がりをもつ都市として発達しました。その範囲は東西約6.4 km、南北約2 kmの国府関連遺跡内の府中域、中枢の国衙は約100m四方とほぼ確定され、7世紀から9世紀にかけて殷賑を極めていました。

3 武蔵国分寺の創建と規模

8世紀の中頃、聖武天皇は疫病退散・国土安泰を祈念し全国の国々に国分二寺を建立しました。武蔵国においては、上野・下野国の国府から武蔵国府にいたる東山道武蔵路が台地から平地に移る地の東に国分僧寺、西に国分尼寺が設置されました。そこは多くの湧水群を西から東に集めて流れる野川の源流域でした。經典奉安の塔、仏像安置の金堂、經典講義の講堂、經典を蔵する経蔵、時刻を伝える鐘楼、僧尼居所の僧尼坊、經典の写経所のほか多くの建物が建てられました。近年の調査結果、寺地は東西約2km、南北約1.5kmを有する全国有数の国分寺であることが判りました。その範囲は、南方の平地のみでなく北方の後背台地上に及んでいました。8世紀中頃から13世紀頃まで法燈が輝きましたが、その後、次第に衰退していきました。

僧寺の北方台地上に木製薬師仏（平安時代末）、尼寺の北方台地上に鉄製阿弥陀仏（鎌倉時代-建長5-1253年）を祀る堂が建立されましたが、後者は江戸時代に濡仏（享保11-1720年以降か）となり、府中の大國魂神社に移され、神仏分離令（明治元-1868年）の後、善明寺に移されました。

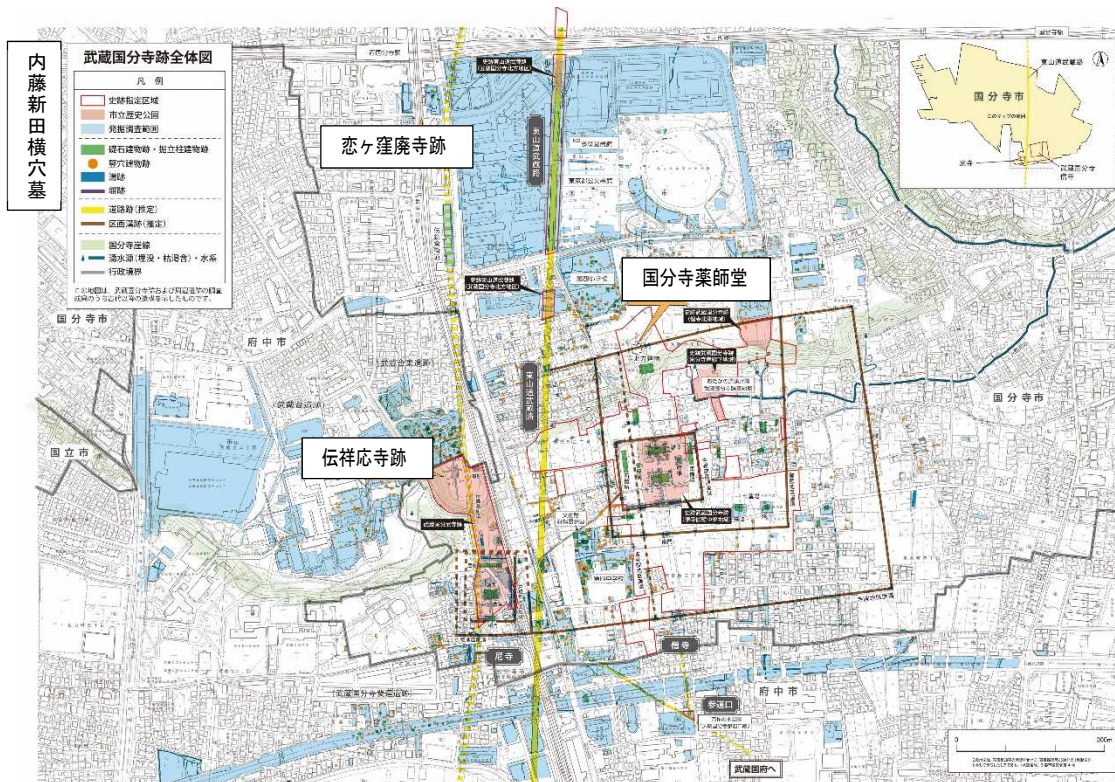
4 トポス探索の先覚3人

国府と国分寺の歴史と遺跡を探索した先覚として「余多あるき」の菊池山哉と「先見実践」の松井新一が知られています。菊池は東京史談会を主宰する郷土史家として、松井は地元の教育者・考古学研究者として活躍し、府中市と国分寺市の歴史研究にとって忘れることが出来ません。菊池の『東国の歴史と史跡』『府中市史』（編）、松井の『武蔵野—その史跡をたずねて—』は、府中・国分寺の歴史を語る時光輝しています。さらに、武蔵国府跡と国分寺跡の考古学的調査を、昭和20年代の中頃に注目した甲野勇を逸することは出来ません。府中と国分寺の遺跡の調査と研究の先覚者でした。甲野の『武蔵野を掘る』には、その成果が凝集されています。

5 「万葉考古学」「水文考古学」そして「観光考古学の視点」

「万葉集」に、天平宝字元年（757）九州北辺の地の防備のため「坂東諸国」から防人^{さきもり}が赴いたときに詠んだ「防人歌」が収められています。防人達は国府を通ったことが考えられますので、「万葉考古学」の視点も注目されます。また、国府跡から大きな井戸跡、小さな井戸跡が発掘されていますが、国分寺跡には見当たりません。国分寺崖線下の湧水群の存在が注目されます。「水文考古学」の出番です。

さらに「観光考古学」の視点から“府中・国分寺の古^{いにしえ}”を展望するとき、ヒストリータウンの過去を偲び、現在を知り、未来を考える手掛かりが見えてきます。



武蔵国分寺跡全体図 (『武蔵国分寺跡の保存と活用 発表要旨』観光考古学会、令和4年11月をもとに作成)



武蔵国府跡全体図 (『ふちゅう地下マップ 発掘!ここまでわかった武蔵国府』府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課、平成31年2月をもとに作成)



国指定重要文化財 木造薬師如来坐像 国分寺所蔵（高さ 191 cm）

（『市制施行 50 周年記念 国分寺市の今昔 平成 27 年 2 月
国分寺市・国分寺市教育委員会』より）



国指定重要文化財 鉄造阿弥陀如来坐像 善明寺所蔵（高さ 172 cm）

（『府中市の文化財（改訂版）平成 9 年 10 月 府中市教育委員会』より）